

第4章 低炭素社会の将来都市像と地球温暖化に対する取り組み

1 低炭素社会の将来都市像

低炭素社会とは、二酸化炭素の排出が少ない社会のことで、地球温暖化の緩和を目的として、その原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素の排出を抑制する社会です。

本市では、環境政策及び地球温暖化対策に関連する上位計画として、第4次名護市総合計画、名護市環境基本計画、名護市地域新エネルギービジョン等があり、以下の基本方針等が定められています。

1) 第4次名護市総合計画

キーワード1：自然の力を活かし創るエコな自立型産業のまち

キーワード2：人の和でつくる自然と都市が調和した快適なまち

2) 名護市環境基本計画

キーワード1：地球環境の保全：地球温暖化対策の推進

キーワード2：循環型社会の構築：廃棄物の減量及び資源化の促進

3) 名護市地域新エネルギービジョン

キーワード1：“ゆいまー”によるスマートライフの確立

キーワード2：新エネルギー導入による、自然と共生するまちづくり

低炭素社会は温室効果ガスの発生源を抑制し吸収源を増やす都市形成を目指すものです。

したがって、上位計画で定められているキーワードも踏まえ、地球温暖化を防止する都市像を以下のように設定します。

**自然と都市が調和した
環境にやさしいまちづくり**

2 低炭素社会の実現に向けた取り組みの視点

公共交通機関を中心とした生活圏を構築するためには、コンパクトなまちに改善するなど、「まちづくり」を通して、エネルギーや暮らしのあり方を見直し、エネルギー消費が少ない中で、市民が安全で快適に暮らせる都市を目指す必要があります。

また、「まちづくり」にあわせ、個々の建物や機器の省エネ化、クリーンエネルギー車への転換など図る必要があります。

さらに、低炭素ライフスタイル・ビジネススタイルが普及し、市民や事業者にとって「低炭素で快適な暮らし」が当たり前となる社会全体の仕組みを構築していくことが必要です。

以上のことを踏まえて、名護市が目指す低炭素都市の構築に向け、3つの視点を整理しました。

1)「まちづくり」の視点

安心・安全・快適に暮らせることが求められていることから、市内の公共交通機関の利便性を高めていくことや、徒歩・自転車利用へのシフトを促すことにより、自動車に過度に依存しない都市の実現を通じて、交通移動のエネルギー消費の削減を図ります。

2)「すまい・しごと」の視点

自然や風土を生かしたまちづくりを前提として、エネルギー消費の少ない快適な建物等の建築、建築整備としてトップランナー機器の導入を促進するなど、すまい・しごとにおける省エネ化を進めることで、低炭素で快適な暮らしを実現します。

3)「エネルギー」の視点

多くの公共施設、事業所、一般家庭が自然エネルギー（太陽光、太陽熱、風力など）へ転換し、エネルギーの効率的な利用の拡大、未利用エネルギーの有効活用などエネルギーの地産地消を推進します。さらにHEMS及びBEMS、蓄電池等が連携されるなど、地域エネルギーマネジメントを実現します。